

支部長挨拶 西日本高速道路(株)中国支社 北村 弘和



西日本高速道路(株)中国支社の北村弘和です。支部長としてご挨拶申し上げます。

はじめに平成 28 年度の事務局の任にあたられました、土田支部長、河合幹事長、一井事務幹事におかれましては、この 1 年間の支部の事業運営お疲れさまでした。

さて、ここ数年の土木に係わります自然環境に目をむけますと、皆さまの記憶にも新しいとは思いますが、広島の高雨災害、熊本地震等がありました。更に冬季におきましては、今年 1 月、2 月には鳥取地区における豪雪が発生するなど想定を超える自然災害等が頻発している状況です。

一方で、中央自動車道笹子トンネルの天井板落下事故や新名神高速道路の橋梁工事における落橋事故など安全に関する取り組みの重要性が注目されているところです。まさに、防災や減災対策、インフラ施設の老朽化対策、工事の安全対策など土木技術の向上や土木技術者の指導的役割が求められているところです。

このような情勢の中、土木学会では「将来の持続可能な社会の実現に向け、学術・技術の発展、多様な人材の育成」など取り組みを進めているところであり、中国支部においては、総会でも承認いただいたように、支部研究発表会や研究奨励、また土木の日関連行事や各種表彰など将来の土木技術者育成に向けた取り組みを打っていく計画でございます。

最近のもう一つの課題ですが、土木技術者のスキルアップという問題もあります。これまで OJT つまり仕事を通して土木技術の研鑽を行なってきましたが、時間的な制約などがあり勉強したくても労働と見なされてできないことや、仕事上の資料を持ち帰り勉強することもセキュリティ上の問題からできないということもあります。

国では働き方改革が押し進められておりますが、効率的に学習できる勉強のやり方改革など、特に若手技術者が自己研鑽として勉強できる学習支援なども検討することができればと思っています。

最後になりますが、引き続き支部会員の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

土木学会中国支部特別講演会の開催報告

幹事長 西日本高速道路(株)中国支社 川瀬 憲司

平成 29 年 5 月 10 日(水)メルパルク広島にて、土木学会中国支部特別講演会として、次期土木学会会長 大石久和氏による『「危機感のない日本」の危機』と題して講演いただきました。



講演会では、日本の脆弱な国土条件と厳しい自然条件を前提としたインフラ整備や、公共投資水準の国際比較や GDP の税収比較などの定量的な分析をもとに、この 20 年間世界の先進国のなかで、

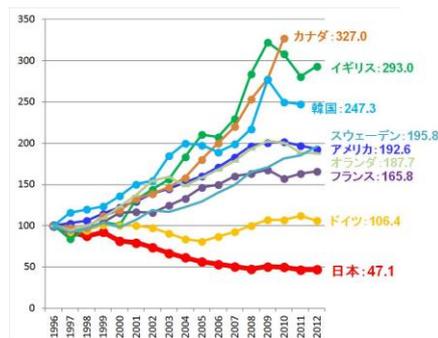


図-1 一般政府公的固定資本(≒公共事業費一用地補償費)形成費の推移 ※1996年を100とした割合

イギリスの資本投資が 3 倍、アメリカの資本投資が 2 倍となっている一方で、唯一日本だけが投資を削減し続け、わが国はデフレから脱却できていない。これはつまり、木における研究成果や民間企業などの努力成果の国民への還元も半減してきたということです。大石次期会長は、この危機的現状を捉まえ、今後の土木の領域は、これまでの限られた分野に留まらず、経済学、法学、心理学などの分野を体系的に包含した領域とすべきであり、また、この領域を有する土木技術者自らが土木の発展、さらには日本の発展に向け発信し、また、事業に邁進していくべきだとおっしゃられました。

本講演は、私をはじめ、土木に携わる技術者・研究者にとって、自らが社会に対して果たしている、また、果たそうとしている使命感を再認識するとともに、これからの行動に大きな影響を与える貴重なものでありました。

どぼくシニア会 土木シニア講演会
支部活性化WG どぼくシニア会 山下祐一

土木学会中国支部は、平成25年度に55歳以上の土木学会の会員を「シニア会員」とし、これまでの見識を生かし、土木の意義を広報する力とするとともに、次世代の土木技術者にその知恵を受け継ぐ活動を実施することを目的として「どぼくシニア会」が発足しました。シニア会員活性化の取り組みとして55歳の方にアンケート調査を実施するとともに、「土木シニア講演会」を毎年開催しています。

シニア会員へのアンケートは、経験に裏付けられた見識をどのように学会活動に生かしていただけるかについて検討し、次の項目について回答をいただいています。

- ・見学会があれば説明されてもよいという土木施設
- ・市民向けの講義で話されてみたいトピックス
- ・若手技術者に話をされてみたいトピックス

このアンケートはこれまで108名の方に回答をいただき、このうち、土木施設については土木学会中国支部の現地見学会の参考として利用させていただいています。

また、市民向けの講義、若手技術者への話については、①土木技術一般について、②災害・防災・減災関連(安全安心な社会づくり)、③土木関連講座に分類できるほどの多くの広い範囲のお話ができると回答をいただき、いろんな場面での活用が考えられます。特に、若手技術者に対して、「土木技術者の考え方、あり方/土木技術者の使命」、「土木は社会に貢献しているぞ、構造物をつくるって楽しいぞ」、「技術は努力なり、技・知識を身につけるための努力」など土木の後継者への思いの回答もいただきました。

「土木シニア講演会」は、毎年中国地方の産官学の講師に土木に関する最近の話題や技術開発、今後の動向等について講演をしていただくとともに、一般の市民も参加できるように配慮し、土木への関心の高まりも期待しています。講演会では、パネルディスカッションを行い、参加者の皆さんにも自由に意見を述べてもらうことも考えています。

平成28年度は、講演①「NEXCO西日本本社の事業展開」を西日本高速道路(株)中国支社副支社長の京極靖司氏に、講演②「つぶやき-鋼構造物の残存耐荷力評価と予測-」を広島大学大学院教授の藤井堅先生にお願いしました。話題提供として、「土木シニア会のアンケート結果」を報告し、最後に、ラ・フーラ代表のスタイリストの藤尾陽都美さんに「イケてる親父のつくり方」と題して、広島地区で行われた親父プロジェクトなどについてのお話と実演をしていただきました。イケてる親父のつくり方はシニアの方の高い関心の得て、大いに盛り上がりました。

今後もいろんな企画を立てながら会を進めていきたいと思っておりますので、皆様の協力をお願いします。



平成28年度の土木シニア講演会と実演の様子

若手技術者交流講演会
中電技術コンサルタント(株) 佐竹 亮一

平成29年1月25日に、若手技術者を対象とした、交流講演会を実施した。

本会は、平成28年度土木学会全国大会の研究討論会「研究討論会若手技術者が集まる講演会を考える」で様々な出身地や異なる世代の技術者が参加して議論した、参加したくなる講演会として、中国地方出身の方が企画された最優秀賞を実際に企画したものです(図-1)。

講演会の目的は、普段聞けない仕事での教訓・転機を講演いただき、若手技術者同士の交流を図るものとしました。

当日は、27名の参加があり、講演会・懇親会ともに大変に盛り上がりました(写真-1)。

先輩技術者の教訓・転機は、若手技術者の日常の疑問に共通する点もあり、今後の仕事への取り組み方に役に立つと思います。また、普段あまり交流機会がない若手技術者の交流は、同じ業界で頑張る年代と知り合えたことが活力となるのではないのでしょうか。

北海道・東北・中国 G「講演会は出会い系」		最優秀
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・業界のうら話。仕事・働くことは、 ・失敗談を聞く機会。 ・最先端の技術に関する講演。 	
形式	<ul style="list-style-type: none"> ・TVネット配信などでも公開する。 ・一か所に集まる必要はない ・集まって議論形式、受け身な姿勢を打開。 	
宣伝	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを通じて宣伝。 ・プラタモリなど有名なTV番組に取り上げてもらう。 ・講習会の評価。食べログのような。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会参加に参加して1ポイントを貯める。 ・講演会で人と話す機会を増やす。 ・講演会は出会いの場。 	

図-1 全国大会研究討論会



写真-1 実施風景

土木学会インフラツーリズム ～島根編～
岡山大学 樋口 輝久

人の暮らしを支えるインフラ施設を見学しながら、地域の特産なども味えるバスツアーを企画して、より土木に親しんでもらうことを目的とした「土木学会インフラツーリズム～島根編～」を、平成28年11月13日（日）、松江市内の小学生とその保護者25名が参加して実施した。

流域の尊い人命や貴重な財産を洪水から守ることを目的に作られた斐伊川治水事業に係る土木構造物（斐伊川放水路、尾原ダム）を見学し、斐伊川上流に位置する平成27年度選奨土木遺産に認定された三成ダム、下流では、平成26年度に認定された来原岩樋も合わせて見学した。往路で道の駅などに立ち寄り、地元の新鮮な食材を購入し、昼食は、特産の「仁田米」なども味い、学び・味わう楽しい旅とした。

松江市教育委員会を通じて広報したが、キャンセル待ちが出るくらい人気があり、ほぼ1日で募集定員になった。当日は、お天気も良く秋晴れの日で、参加者は、ダムという巨大な土木構造物の前に感動したようだった。初めてダムカードを手にした子どもたちは、とても喜んでおり、アンケートにおいても、土木に関するイメージも変わり、土木の大切さを実感した見学会であった。



三成ダム



尾原ダム



来原岩樋

土木学会インフラツーリズム ～尾道編～
土木学会中国支部 増村 浩子

尾道市内の小学生の親子18名を対象に、土木遺産や供用中の土木構造物をめぐり、普段は見ることのできない施設内部や先端技術を見学して土木技術への関心を高め、建設業の社会的使命やその活動の実態、さらには社会資本整備の必要性について考える、「土木学会 インフラツーリズム～尾道編～」を、平成29年3月5日（日）に実施した。

まず、本四高速管理センターにおいて、しまなみ海道を構成する橋梁について説明を受け、当時世界最長の斜張橋である多々羅大橋の主塔にのぼって226メートルの眺めを感動した。その後、三連吊橋の来島海峡大橋を見学し、土木技術の素晴らしさをあらためて感じた。昼食は、地元の名産の「鯛めし」を堪能し、特産の柑橘類を購入し、最後に、海の安全を守り続けた選奨土木遺産でもある（旧）大浜埼船舶通航潮流信号所（因島）を見学した。

瀬戸内海の風景を楽しみながら、いろいろな形の橋をウォッチングして土木について考えた一日であった。



多々羅大橋



多々羅大橋主塔見学



来島海峡大橋



(旧)大浜埼船舶通航潮流信号所

土木遺産ツアー & どぼくカフェ in 鳥取
鳥取大学大学院 中村 公一

中国支部では鳥取県と共催で、2014年より土木遺産ツアー・どぼくカフェを開催している。これは土木の日関連行事のひとつであり、鳥取ではこのような行事は少なく一般市民により土木について理解を深めてもらうことを目的としている。本記事では、2016年の内容と、今年の内容について紹介する。

2016年は、旧日野橋と賀祥ダムを見学し、イオンモール日吉津にてどぼくカフェを開催した。旧日野橋と賀祥ダムの見学の様子を写真1、写真2に、どぼくカフェの様子を写真3に示す。賀祥ダムではダムカードの配布や、暑い時期に開催したため外に比べてダム堤体内は非常に涼しいなど、小学生には非常に好評であった。どぼくカフェは、「マンホール蓋は「路上の芸術」」の内容で垣下様を招いて開催した(写真8、写真9)。また同時に普段触ることのない道路標識や、選奨土木遺産の写真を展示し、通りすがりの方にも興味をもって頂けた。

2017年は7月29日(土)に鳥取市で開催する。土木ツアーでは、鳥取西道路で現在工事中の気高第2トンネルを見学し、どぼくカフェはイオンモール鳥取北で行うこととなり、現在準備をすすめているところである。土木の世界に興味をもって頂ける方が増えるよう、今後も継続していきたいと考えている。



写真1 旧日野橋



写真2 賀祥ダム



写真3 どぼくカフェ

「中国地方の選奨土木遺産・写真展」開催報告
岡山大学 樋口 輝久

平成29年2月19日(日)に、平成28年度選奨土木遺産認定授与式の開催に併せ、シーモール下関専門店街1Fコンコースにおいて、今年度認定された「火ノ山砲台」(下関市)を含め、山口県を中心とした中国地方の選奨土木遺産の写真展を開催した。展示時間は10:00~19:30であった。

選奨土木遺産の構造物としての造形美、風景に溶け込んだ様、季節・気候によって織りなす様々な表情などを、気軽に見てもらい、身近なところに土木遺産が存在していることに気づき、「行ってみたい」と思わせるような写真を40枚展示することによって、土木への親しみをもってもらうきっかけとした。

人通りの多い、商業施設内で実施したため、通行中あるいは買い物中の家族連れ等が足を止め、熱心に見入っていた。いずれも山口県内の「火ノ山砲台」、「角島灯台」(下関市)、「惣郷川橋梁」(阿武町)に人気があった。なお、土木コレクションのバナー(惣郷川橋梁)も展示した。

また授与式では、羽田野袈裟義商議員より、中尾友昭市長へ認定証と銘板を授与した。



写真展の様子

編集後記

おかげさまで土木学会中国支部 Newsletter の Vol.24 を発刊することが出来ました。執筆いただいた方を始め、広報委員会の皆様のご尽力に感謝いたします。中国支部は他の支部に比べ必ずしも規模的に優位な支部ではありませんが、支部会員皆様の熱心な活動は他の支部に比べ全く引けをとりません。

このニュースレターは「ニュース」であるからこそ、支部会員皆様の活動を「ニュース」として支部会員の皆様にお伝えしたいと考えます。今後ご協力をよろしくお願いいたします。

継続は力なり。広報活動に努めます。(N.O)